

検討を要する指標について

【例示1】指標 No.5 「高血圧の改善(40～89 歳)(収縮期血圧の平均値)(血圧の服薬者含む)」

時期	策定時				中間評価時				最終評価時			
出典	健康づくり道民調査 (H23年度)				健康づくり道民調査 (H28年度)				健康づくり道民調査及び道民歯科保健実態調査 (R4年度)			
調査方法	身体状況調査 (実測値)				身体状況調査 (実測値)				書面調査 (自己申告値)			
		総数	男性	女性		総数	男性	女性		総数	男性	女性
データ数 (人)	40-49歳	132	47	85	40-49歳	148	62	86	40-49歳	341	148	193
	50-59歳	242	99	143	50-59歳	163	71	92	50-59歳	393	193	200
	60-69歳	369	161	208	60-69歳	332	152	180	60-69歳	466	215	251
	70歳以上	356	182	174	70歳以上	379	185	194	70歳以上	608	200	408
	総数	1,099	489	610	総数	1,022	470	552	総数	1,808	756	1,052
収縮期血圧の 平均値		男性	138mmHg			男性	136mmHg			男性	129mmHg	
		女性	134mmHg			女性	130mmHg			女性	125mmHg	
備考	調査地区の中から、調査への協力に同意した人が対象。身体状況調査会場にて血圧の測定を行っている。				調査地区の中から、調査への協力に同意した人が対象。身体状況調査会場にて血圧の測定を行っている。				過去1年間に、健診や人間ドックを受けたことがあると回答した人が対象。健康診断時の結果を申告いただいている。			

当該指標をはじめ、計画策定時及び中間評価時に、健康づくり道民調査の「身体状況調査」を出典としていた指標(No.5、6、7、15等)については、実測値から自己申告値に切り替えたことにより、数値に乖離が生じているため、比較には適さないと判断。

特定健康診査結果等、より規模の大きなデータを活用することとする。

【例示2】指標 No.32 「適正な量と質の食事をとる者の割合(20 歳以上)」

- 食塩摂取量
 - 野菜摂取量
 - 果物摂取量
- 計画策定時及び中間評価時は、食事記録法で行ってきたが、今回調査法を「食事歴法」に変更。
- 今回の調査結果は「参考値」として用い、その旨を明記したうえで、評価対象として、取り扱う。(調査法の詳細は別添のとおり)

【例示3】指標 No.28、36「日常生活における歩数」

- 20～64 歳の歩数
 - 65 歳以上の歩数
- 計画策定時及び中間評価時は、調査日(平日の1日)の歩数について、歩数計を配布し調査を行っていたが、今回、調査法を「ふだんウォーキングアプリや歩数計を活用している」と回答のあった者の「自己申告値」に変更。
- 今回の調査結果は「参考値」として用い、その旨を明記したうえで、評価対象として取り扱う。

※ 指標 No.27、31「適正体重を維持している者の割合」についても、「実測値」から「自己申告値」に、方法を変更しているため、同様に「参考値」の取り扱いとする。